

裂けた神殿の幕(マルコ 15:33-38)

信者になったにもかかわらず、なかなか確信が持てないまま揺れる場合があります。その人はいろいろな理由を取り上げるでしょうけれども、それは自分の水準と自分の基準で信仰生活をしているからです。その人がそこから抜け出して神様がなさったことを信じる信仰に立つときに、その自分を超越して勝利できるようになります。その神様がなさったこととは一体何でしょうか。今日の聖書を見ますと、いよいよイエス様が息を引き取られることになります。十字架の上で大声で叫んでイエス様が死なれました。その瞬間、神様と人との間を隔ていた神殿の幕が上から下に真っ二つに裂けたと書いてあります。ヘブル 10:19-20 には「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです」と書いてあります。イエス様が体を引き裂かれ死なれたことで神殿の幕が裂けてしまったということは、もうこれ以上、祭司長によるいけにえを捧げることなどはいらぬということなのです。羊の血をもって至聖所の方に入る儀式などはもう要らないものになっているんだということです。なぜかと言いますと、イエス様ご自身が自ら真の大祭司として、直接、私たちを神様の方にもっていくように道が開かれたからです。これがイエス・キリストの十字架の奥義の一番大切なポイントになります。なので神殿の幕が真っ二つに裂けた、つまり神様と私との間にあったその壁が全部崩れて消えてなくなったという十字架の奥義を通して、

1. 十字架を握ると、神様に行けないすべての理由が消える。

まず第一に、この十字架を握ると、神様に行けないすべての理由が消えてしまうということです。本来、私たちには神様に行ける道などはありませんでした。

1) 神様に会える道、皆無-ローマ 3:23、ヨハネ 8:44、エペソ 2:3

神様に会える道などは 1mm もなかったし皆無なのです。全くありません。だから聖書にはローマの手紙 3:23「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」と言われています。だから神様に会える道などはありません。その結果、ヨハネ 8:44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者」とであると言われる身分になってしまったので、神様に会えることなどは一切できません。それでエペソ 2:3、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれることになりました。なので人間の力では神様に行ける道などは作ることもできないし、存在しません。このような根本的な霊的な状態であるがゆえに、神を知らないまま自分にこだわることしかわかりません。霊的なことはわからないので、肉体的なこと、見えるものにこだわることしかわかりません。永遠の世界、天国などとは無関係なので、目に見えるこの世にあるものにこだわることしかできません。それにこだわってどうにかそれにうまく行けるかというふうに思うことを聖書は欲と言います。欲によって生きることしか生き方はできません。だから当然、霊的な問題が来て精神的に患い、肉体的に病を患い煩い、そして人生が崩壊して死んだ後は永遠の地獄に落ちるしかないし、それが子孫三代四代ずーっと終わることなく続くようになる滅びの運命に捕らわれることになりました。だから、人に神様に会える道など存在しません。いくらお金を持っていても、いくら勉強して知識を蓄えてとしても、いくら頑張っても努力してもがいたとしても神様に会うことはできません。宗教を選び、宗教にのめりこんだとしても神様に会える道にはなりません。地上にいるいかなる人間にも神様に会える道などは許されていません。これが本来、私たち人間の状態なのです。そのような人のためにイエス・キリストが、罪のない神の御子キリストが十字架で身代わりとして体を引き裂かれ死なれました。そのときに会うことができない理由しかない神様と人間との間の分厚い壁が真っ二つに裂けてしまいました。

2) 神様に会えないすべての理由が消え-聖書の証拠

だから、キリストの十字架の前では神様に会えないすべての理由が全部消えてなくなったということなのです。今まで神さまに会うことができない滅びの運命を申し上げましたけれども、そこに縛られて捕らえられる理由などは、十字架の前で消えてなくなったということです。神様に会えない理由は十字架の前では 1mm も存在しません。私たちは過去のさまざまのことを引きずって、これでいけないのではないのか、これ

なら受け入れられるだろうと自分勝手に思っているのですが、神殿の幕が真っ二つに裂けたその十字架の前では、神様に会えないすべての理由が消えてなくなりました。聖書にはその証拠だけなのです。十字架を通して奴隷だった人が神様の子どもになります。人に指さされて売国者と睨まれていた人間も十字架を通して神様の子どもになりました。娼婦になるしかなかった波乱万丈な人生を歩いていて、一番下っ端をくぐっていた娼婦も十字架を通して神様に会うことができ、新しく作り変えられることができたわけです。ど泥棒も人殺しも殺人強盗でもこの十字架を通して神様に会うことができました。つまり、人殺しも犯罪も娼婦だった汚れた過去も神様に会えない理由にはなりません。これが十字架です。私たちはイエス・キリストを信じているのにも関わらず、過去のさまざまな法則がサタンのやぐらとしてそのまま脳細胞に残っていてそれに振り回される時が多くあります。今日限り、その古いサタンのやぐらが全部壊れて粉々になることを祈りたいと思います。どうすればいいのでしょうか。十字架を握ればいいのです。十字架の奥義の前に立つことでサタンのやぐらがすべて砕かれていくようになります。キリスト教会を迫害して、イエス様も迫害していたその迫害者でさえ十字架を通して神様に会うことができました。つまり迫害をしていたその過去も神様に会えない理由にはなりません。悪霊に取りつかれて占いをしていた人間も十字架を通して癒されて神様に会うことができました。つまり、悪霊に取りつかれていたその過去も神様に会えない理由にはなりません。それを一番わかりやすく私たちに教えていた例え話が放蕩息子なのです。到底許されることのできない放蕩息子。自分の父親に対しても、家族に対しても自分自身に対しても、また自分の人生、周りの人に対しても良いことが一つもない人間でも、それが神様に会えない理由にはなりません。なぜなのでしょう。イエス・キリストが代わりに十字架にかけられて、その体が引き裂かれることによって神様に会えない理由をすべて消してしまいました。神殿の幕が上から下に真っ二つに裂けたということを心に覚えてください。

3) 神様に受け入れられないすべての理由が消え-神の御胸に抱かれて

つまり、神様が私たちを、自分を受け入れることができないというすべての理由が消えてなくなりました。先ほども申し上げましたように、私たちはこうだから神様が喜んで受け入れて、こうだから神様に捨てられるというふうに分勝手に自分の基準で自分の水準で評価して考えてしまう傾向があるわけです。それを今日限りすべて捨てましょう。イエス様の十字架の前に立って。私が神様に受け入れられない理由などは存在しません。もし理由があるとすれば、信じない不信仰だけになります。だから、いかなる理由があっても、いかなる条件であっても、私たちは十字架を握って神の御胸に抱かれることができます。それで神様は私たちを抱いてこのようにおっしゃいます。迷わずに。あなたは義人なんだ。私はあなたを愛しているよ。あなたは私の子どもなんだ。だからあなたは幸いな人なんだと。こうおっしゃることができない、それが邪魔される理由などは存在しません。なにが神様からこのように受け入れられて、このように言われることを邪魔しているのでしょうか。悪魔のささやきの他にはありません。私たちの不信仰のほかには理由にはなりません。これがイエス様が十字架で死なれたときに神殿の幕が上から下に真っ二つに裂けたという祝福でありメッセージなのです。皆さんの水準、皆さんのレベル、皆さんが持っている基準、宗教的な基準、律法的な基準、因果応報的な基準、道徳的な基準などなどによって邪魔されることはないように十字架を握りましょう。知らない人から見ると凶々しいのではないと言われるかもしれません。どうぞ言ってください。どうぞいくらでも勝手に言ってください。でも私はあなたが知らないイエス・キリストの十字架の奥義を知っています。だから人間のレベルでは凶々しいと言われるかもしれませんが構うことはありません。私は幸いなものなんだ。私は神様に受け入れられた。私たちがどうのこうのは神の目には見えません。イエス・キリストが十字架で体を引き裂かれて死なれたそのこと以外には見えません。それを通して私たちを受け入れられるわけです。これを福音と言います。この世にはない法則なのです。なのに残念ながらクリスチャンでも自分の水準、自分の基準でこの神の愛を天秤にかけたりするから、神様に迷わずに進むことが邪魔されるわけです。だからなかなか祈れません。祈れたり祈れなくなったりの繰り返しではないのでしょうか。そうする必要などありません。言葉を変えますと私たちに祈れない理由などは存在しません。

2. 十字架を握ると、神様が私に來れないすべての理由が消える。

だから当然、言葉を変えますと、ひっくり返しますとこのようなメッセージになります。神殿の幕が上から下に真っ二つに裂けた、そのことを覚えて十字架を握ると、神様が私に來れないすべての理由が消えてなくなりました。行き来できるように門が開かで道が開かれました。それがイエス・キリストの十字架なのです。だから十字架を書きながら「救いの道」と言っているのではないのでしょうか。もう一度言います。十字架を

握ると神様が私に来られないすべての理由が消えてなくなります。イエス様はヨハネ 10:10 でこうおっしゃいました。「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためのです。わたしが来たのは、羊がいのちを得」、それで終わりではありません。「またそれを豊かに持つためのです」とおっしゃいました。これはどういう意味なのでしょう。

1) すでに私の中に来ておられる。-ヨハネ 14:20、17:23、1 コリント 3:16

十字架を通して信じる私たちにすでにとくに内側に神様が来ていらっしゃるわけです。これをいのちと言います。ヨハネ 14:20 には「その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります」。そう言われています。ヨハネ 17:23 にも同じようなことが書かれています。肉的だけで考えると到底理解できない算数のような話なのです。しかし、十字架を通して神様と私の間のすべての壁が崩れてしまったので、私が神様に、神様が私の方に来ることができます。それがなければ救いは存在しません。それをいのちと言います。だから I コリント 3:16 には、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることがわかっていないのか。聖霊様によってこれが可能になるわけです。もうとくに私の内側に来ていらっしゃるわけです。そうならない理由がありません。

2) 豊かにする為にならずと働かれる(来られる)。-御座の栄光、時空超越の力、237 生かす光(ローマ 5:1-2)

そして、それで終わりではなくて、これは霊的なことなので物理的に幾何学的に考えてはいけません。私たちを豊かにするためにずっと働いていらっしゃるし、言葉を変えますと、ずっと来られ続けるわけです。そうならない理由がすべて消えてなくなりました。イエス様の十字架によって。私たちをより豊かにするためにずっと来られるということは何かと言いますと、とくに来ていらっしゃいます。永遠に離れることなどありません。そのうえ、だからこそ、この世にはない御座の栄光と祝福をもって、時間空間を超越する力をもって、237 国を生かす光をもって私の方にならずと来られ続けるわけです。それが邪魔される、またできなくなる理由などが消えてなくなりました。ローマ 5:1-2 にはこう書いてあります。このキリスト・イエスにあって神の栄光を喜んで大いに望むべきではないのかと書いてあります。私たちにいのちがあるので、この十字架を通して三位一体の神様が聖霊を通して私の内側に入ってきて住まわっていらっしゃるのです。ずっと働かれるのです。これが神殿の幕が真っ二つに裂けたという祝福の意味です。

3) これを妨げるすべての理由が消え(使徒 1:7-8)

このように御座の祝福をもって信者の内側にならずと来られて働かれることを妨げるすべての理由が消えてなくなりました。信者であっても弱さがあります。私が弱さを抱えているからこの御座の祝福をもってずっと来られることが邪魔されることなどはありません。時には過ちを犯したり失敗するときもあります。その失敗が御座の祝福が来られることを邪魔することにはなりません。その理由にはなりません。苦難に遭う場合があります。その苦難も御座の祝福が信者の内側に来られて働くことを邪魔する理由にはなりません。迫害を受けるときもあります。つらいでしょう。でも、その迫害も御座の祝福が働き続けることを邪魔する理由にはなりません。いかなる環境、どのような条件であっても、イエス・キリストが十字架によって開かれた神と私の間の生きた道を邪魔することができるものは存在しません。いかなることも理由にならないということを覚えていてください。だからイエス様は最後におっしゃいました。このイスラエルの国を再興してくださいと聞かされたとき、それはあなたがたは知らなくてもいいですよ。植民地であろうが、刑務所の中であろうが、学問があまりないものでであろうが、成績が悪くても性格が悪くてもそういうことは理由にならないので知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると力を得て、地の果てまでわたしの証人となるよとおっしゃいました。そこにそのような意味が含まれているわけです。この使徒 1:7-8、それはあなたがたは知らなくてもいいですよとおっしゃったのはなぜでしょうか。御座の祝福はあなたがこだわって気にしていることに邪魔されないで、あなたの内側にならずと注がれ続けるんだからということなのです。これが神殿の幕が真っ二つに裂けたということの意味なのです。だからこそ初代教会にイエス様がおっしゃいました。あなたは知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると、地の果てにまでわたしの証人となります。このことばは今も進行形なのです。今もずっと生きて働いているものなのです。

4) 祈れないすべての理由が消え

先ほども申し上げましたように、ということで信者の私たちが祈れない理由などは存在しません。でも、私たちはついこういうことだから祈れない、こういうことだから祈れる、ということがいろいろあるかもしれません。なぜなのでしょう。自分の水準、自分の基準で信仰生活をしてるからです。神がなさったことを信じる信仰によって信仰生活を営むようにしていきましょう。神がなさったことは何でしょうか。御子キリストを十字架に引き渡されることで、神と私との間のすべての壁が全部崩れて、会えない理由、来れない理由を全部消してしまいました。これが神がなさったことなのです。それを信じる信仰に立つことです。義人は信仰によって生きる。だからもう一度申し上げますが、そうならない理由は私たちが理由として取り上げているものではなくて信じない不信仰だけなのです。不信仰の他には理由はありません。神のみことばを聞いて、このみことばから答えを見つけ出して、それを握って祈ると神様がそれを成就させ、力を与えられます。そのようなものを祈りと言います。これができない理由は存在しません。信じないからだけなのです。死の影の谷は歩いていても祈りはできます。奴隷として売られてすべての自由を奪われたとしても祈りはできるわけです。根拠は何でしょうか。イエス・キリストの十字架。キリストの御名です。だからパウロのように十字架の前で私はもう死んだ。自分を否定して自分の思い、自分の見解、自分の主張などは無視してイエス・キリストを握るように。十字架の奥義を握るように。神様に進めないようにするすべての理由が消えるように、神様が御座の祝福をもって私に来られることができないようにするすべての理由が全部私から消えていくように。その祝福を体験しようではありませんか。神様の愛を疑ったり、また迷ったりすることなく十字架を握って無条件、神の愛の御胸に飛び込んで抱かれて、このようにささやきましょう。「父なる神様。お父様。私は神様の子どもです。私は神様に愛されています。私は幸いなものです。私は証人として召されました」ということを迷わずに堂々とささやきましょう。愛のささやきなのです。ささやきましょう。なぜこれが邪魔されるのでしょうか。イエス・キリストが十字架で体を引き裂かれて死なれたのになぜこれが邪魔されるのでしょうか。また、何がそんなに気になって、そんなに忙しくてこれを忘れるのでしょうか。一日一回でも真剣にこのように愛のささやきの時間を持てば皆さんの人生は変わります。神は今礼拝を捧げている今も来られ続け、注ぎ続けていらっしゃるのです。そうならない理由がありません。

そして、この十字架を信じる信仰によって無条件、今現在、御座の祝福で満たしてくださるようにと祈りましょう。なぜそれを祈らないのでしょうか。当たったロトの宝くじがここに下りてくるとなれば早く下ろしてよというはずですよ。邪魔される理由がありません。御座の祝福が、血を流されて買い取られた尊い神の御子キリストが皆さんの内側に注がれることに邪魔されることはありません。邪魔になる理由が存在しません。ならば、それがあんなになぜ求めないのでしょうか。信じないからです。なぜ信じないのでしょうか。もちろんこの霊的な祝福ではなくて、肉体的なものにあまりにも慣れているからという体質の問題もあるし、もう一つは私のような者にそんなにそれが注がれるかな？とかもあるかもしれません。その私のようなものというのは理由になりません。その私のようなものためにイエス様が十字架で体を引き裂かれたので理由が消えてなくなりました。感謝しましょう。それで思いきり堂々と求めましょう。御座の祝福で満たしてください。死の影の谷を歩きながらも、人に誤解されたときにも、無視されたときにも、例えば予期せぬ事故に遭ったときにも、御座の祝福が注がれて満たされるようにと祈るべきであり、祈ることが私たちの特権なのです。その結果、内側から癒されて、それに力が伴われて証人になります。そうなるように祈ろうではありませんか。自分の基準、自分の水準、それはあてになりません。それにあまりにも振り回されて悩まされることなく、キリストの十字架の奥義を握って自分から自由になりましょう。条件から自由になりましょう。世の法則から自由になりましょう。それで集中して世の人が経験することができない素晴らしいのちの祝福、力を経験するようにしていきたいと思えます。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。キリスト・イエスが十字架で死なれることで神殿の幕が真っ二つに裂けました。この驚くべき事件を通して、私たちのすべてを捨てて、キリストの十字架を握って堂々と神様の前に進み、そして神様が私に来られることを期待し、望み、求める祈りが邪魔されない勝利の信者になるようにひとりひとりを祝福してください。私たちの内側にあるサタンのやぐらがキリストの御名によって、十字架の力によって粉々になるように心からお願いをいたします。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。